

名取市堤防復旧工事 ～仙台空港周辺～

平成24年12月7日(金)

☆概要☆

地域の復興計画と整合を図り、概ね5年間で
T P + 7 . 2 mの海岸堤防を延長約30km整備する。

☆復旧状況☆

全体工事区間の約65%の区間で堤防工事着手(工事契約)済み |



☆海岸堤防の構造☆

～粘り強い海岸堤防～

- ・堤防が破壊、倒壊するまでの時間を少しでも長くし、避難時間を確保。
 - ・堤防が全壊(完全に流出した状態)に至る危険性を低減。
- ↑上記の減災効果を目指して、構造上の工夫を施した。



各コンクリートブロックの厚さ
重さを従来の物より高めてより
津波に強い構造になっているそ
うです。

<豆知識>

重さ2.0t 厚さ50cm

・・・お値段は¥40000

～～感想～～

今回、震災で破壊された海岸堤防の復旧工事を見学して、私たちにとって堤防がどれほど大切なものなのか、震災がどれほど悲惨なものだったのかを再認識できました。

決して楽な仕事ではないと思いますが、前向きに復旧を進めてくださっている現場の方々を見て自分自身、早く宮城のためにそういった仕事に携わってみたいという気持ちが強くなりました。

最後に、今回のような素晴らしい機会を提供して下さった国土交通省[仙台河川国道事務所]の方々本当にありがとうございました。

現場見学会

今回の見学会は12月7日、国土交通省 東北地方整備局 仙台河川国道事務所の方に来て頂き行いました。大きく分けて以下の二つの事について説明を受け学びました。



「東日本大震災」への対応について

東日本大震災への対応については、まず初めにヘリを緊急発進。発災37分後、ヘリを離陸させ、ライブ映像を災対室へ。そして「くしの歯」作戦という東北道、国道4号を始めとする各市への国道確保国道45号、6号の97%哲開を実行し成功させました。それにより交通が可能となりました。



「海岸堤防について」

海岸堤防については、[粘り強い海岸堤防] 設定値を超える巨大な地震が襲来しても、堤防の効果を粘り強く発揮できる構造にという意味をもった構造で施工されています。なぜそのような構造となったかということ、たとえ堤防が破壊されても、倒壊するまでの時間を少しでも長くし、避難時間を確保することや、堤防が全壊（完全に流出した状態）に至る危険性を低減するという効果を成すことからこのような構造になったそうです。



「まとめ」

今回の現場見学会を行ってみて、被災地のためにより早く的確な対応や、自分が知らなかった様々な人が震災復興に関わっているということを改めて実感しました。そして私は今回学んだことを工業人としてこれからなにかに活かせることができればいいなと思いました。また、このような機会がもっと増えれば嬉しいです。